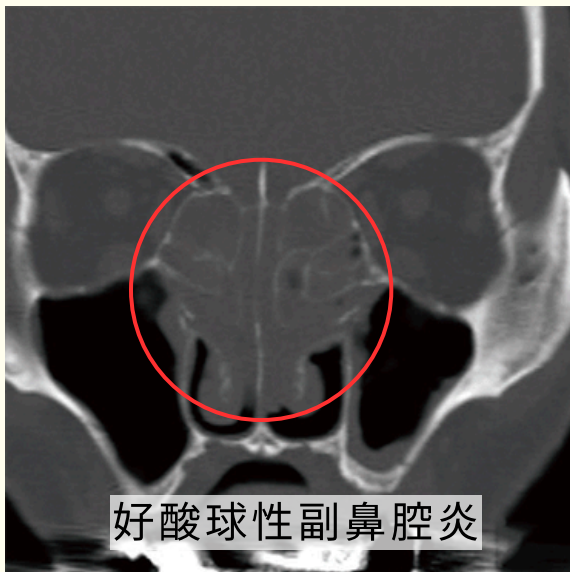


好酸球性副鼻腔炎とは

鼻や副鼻腔に好酸球という白血球が大量に集まって慢性的な炎症を起こす病気です。一般的な慢性副鼻腔炎とは異なり、手術をしても再発しやすく、ステロイドの使用で軽快するなどの特徴があります。また、喘息の方に多くみられる傾向があります。



引用『ヘルシスト271号』

診断方法

鼻内視鏡検査

内視鏡を用いて、鼻腔内のポリープの有無・粘膜の炎症を観察します。

CT検査

CTスキャンで副鼻腔内の空気の通りや、分泌物の溜まり、炎症の範囲を確認します。

血液検査

血液中の好酸球数を測定し、アレルギー反応の有無等を調べます。

病理組織学的診断

摘出したポリープの組織内の好酸球数を調べます。

主な症状

- ・ 鼻づまり ・ 嗅覚障害
- ・ 粘性のある鼻水
- ・ 後鼻漏（鼻水がのどに流れる）
- ・ 顔の重だるさや圧迫感
- ・ 鼻ポリープ

主な治療法

好酸球性副鼻腔炎は再発しやすいため、治療を続けることが大切です。

治療法	治療内容	特徴	備考
内服・点鼻薬治療	鼻噴霧用ステロイド 抗ロイコトリエン薬 点鼻ステロイド 内服ステロイド …等を使用	短期間で効果が出やすい。	長期使用は副作用のリスクがある。
内視鏡下鼻副鼻腔手術	鼻や副鼻腔を広く開放し、ポリープを除去して換気・排泄を改善。	鼻の穴から内視鏡を入れて、内部をモニターに映しながら手術を実施。	好酸球性副鼻腔炎は再発しやすいため、術後の内服や点鼻治療の継続が必要。
生物学的製剤	デュピクセント® ヌーカラ® …を使用	有効性の高い治療法として注目されている。ステロイドと異なり、長期使用での安全性も確認されている。	重症例・再発例の場合のみ使用可能。

